

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を掲示し、確認するようにしている。グループホーム独自の「憲章」を職員に対して配布し、就業前に確認できる環境を整えている。グループホーム独自の「憲章」の見直しも適時行う。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有の目的で、「憲章」の掲示（スタッフルーム）を行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の関わりとして、見守り隊や市民清掃、ボランティアハウスへの参加を随時行い、地域への理解を深めるように努めている。ご家族への報告・説明も随時行っている。	○ 見守り隊への参加の流れを作り、街頭活動以外（ドライブ等）での参加もできる様に特養・DS・地域包括・居宅との連携を図る。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時など、挨拶を活発にするようにし、畑仕事の方と立ち話をするなど関係性は保っている。また、地域のボランティアハウスへのお誘いを頂くなど、定期的に交流を持っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアハウスへの参加・見守り隊への参加を随時行っている。また、運営推進会議に民生委員・区長・地域包括の職員の参加を頂き、開催している。	○ グループホームとは何か？という告知活動を行っていきたい。（新聞の配布など）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	見守り隊を実施し、軌道に乗せることによって、地域包括が関わっている高齢者の参加促しを行う。	○	高齢者にとって負担の少ない参加方法の模索、参加状況の開示などを行う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価を元にし、取り組みを徐々にすすめている。玄関先の家庭的な雰囲気作りを進める。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各務原市の見解に基づき、運営推進会議を2ヶ月～3日月毎に1回実施している。報告事項は予め参加予定者に郵送・配布され、内容をよく確認して頂いた上で、会議を開催している。毎回意見の吸出しを行い、次回に生かしている。	○	運営推進会議のメンバーを検討し、関わりの大きい地域の方々（利用するスーパー責任者・警察官など）に参加して頂けないか打診する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行事に市関係者を招待し、現場の様子に触れていただける機会を、年2～3回持っている。	○	グループホーム独自の取り組みについて、運営推進会議以外にも定期的に報告できるような機会を設ける。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	会議の中で、地域権利擁護事業や、成年後見制度についての勉強会を行い、理解を深める。	○	地域権利擁護事業・成年後見制度についての勉強会を実施したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての認識を深めるため、勉強会を開催する。	○	高齢者虐待防止関連法についての認識を深めるため、勉強会を開催する。具体的な事例を挙げたり、地域包括職員による勉強会を依頼する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時は、ハウスマネージャー・生活相談員が同席し、わかりやすく説明する。説明が終わった後でも、ご家族が不安を持っておられる様子であれば、随時説明を行う。	○	情報を掲示する掲示板の設置、意見箱の設置を行う。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	つぶやきの拾い上げを行い、選定を行い会議で話し合っている。	○	つぶやきの拾い上げを増やし、結果の公表を検討する。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	週に1回程度、電話や来設時に状態の報告などを行っている。電話連絡チェック表を作成し、各担当で確認、連絡の実施を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	週に2回程度、電話や来設時に状態の報告などを行う際にご心配のあることはないかお聞きするようにしている。また、家族会の後に意見交換会を実施している。	○	これらの取り組みを実施するのと平行して、意見箱とその返答ボードの設置を検討する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議時に、意見発表の場を設けている。また、意見は無記名で出せるように配慮している。集まった意見は、会議時に発表し、検討している。また、個別対応については随時行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	可能な限り、利用者様の身体状態や要望に合わせたシフトを組み、調整を行っている（美容室での洗髪・個別入浴など）。		

岐阜県. グループホーム ジョイフル各務原

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職場の異動に関しては、業務上都合・本人の希望に応じて検討している。利用者様にとって安心できる場所を確保するため、異動は最小限に抑えたいが、退職もあり固定した職員の確保が困難なこともある。	○	なじみの職員の確保、新しい職員と利用者様の信頼関係の構築を薦めるような取り組みを行っている（コミュニケーション業務中心に入ってもらい、いっしょにお出かけしてもらうなど）。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の勉強会・研修は可能な限り参加してもらっている。	○	今後はGH部会主催の研修・勉強会を開催し、一番現場で必要とされている事を学んで貰えるような機会を定期的に設ける。認知主介護実践研修への参加をすすめる。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協会主催の勉強会・研修などに参加し、ネットワーク作りに努めたい。勉強会には参加する予定。	○	各務原市主催の通所部会に参加し、他事業所（GH以外の居宅等も含む）との連携を持つ。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	有給を可能な範囲で支給し、リフレッシュして頂くように努めている。誕生日休、有給の消化をすすめる。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ポジティブプランを実施し、職員が何を目標として勤務にあたっているのかなど把握するようにする。また、それに応じた業務の割り振り、実績の確認を行う。	○	ポジティブプランの実施。業務分担の見直し。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の中でコミュニケーションを取る時間をなるべく見つけ、必要に応じて個々の意見を吸い上げられるように、個別で話合うなどの時間を確保する。 得た情報は担当を中心に職員全体で把握できるよう努める。また、必要に応じて会議で話し合うなど検討する機会も設ける。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	週1回の連絡の実施や、担当やハウスマネージャーによる相談の受付を随時実施している。	○
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	検討する事例が発生した場合、ご本人・ご家族から意見を吸い上げ、それを担当職員とハウスマネージャー、各職員、施設長・生活相談員・介護長・地域包括職員等と相談し、適切な解決方法を模索するよう努めている。 また、必要なもの（ソフト・ハード両方）はお互いの検討の上で利用できるよう配慮している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	はじめにサービスを利用することで、ご本人にとって安心してサービスが受けられるように、他部署・ご家族とも連携し、なじんでいただける様ご本人の希望を伺いつつサービスを提供している。 ご家族も協力して頂いており、なじんで来られてからも状況の説明を行うなど、情報の提供を行っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様のそばに寄り添い、孤立させないように配慮している。過剰な介入・介助は避け、困ったときは頼って頂けるような関係性を築くよう努力している。現状の信頼関係を維持・改善し、ご本人にとって過ごし易い環境を整えるよう努めている。	

岐阜県 グループホーム ジョイフル各務原

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	検討事項のあるなしに関わらず、ご本人にとってどの状態がベストか、ご家族が望まれる対応はどんなものか、お互いに話しあうよう努めている。	○	家族会や意見交換会等で、交流を行っている。また、個別の話し合いや、ご本人と一緒に居室でお話するなど、利用者様にも可能な範囲で（混乱されない方のみ）立ち会って意見を伺うようにしている。意見を出しやすい環境を維持し、改善するよう更に努力する。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時に生活暦・ご家族から見た利用者様の性格などについてのシートを作成して頂く。それと照らし合わせてご家族との関係性の理解・良い関係の構築に努めている。 また、今までの取り組みを継続し、新しい情報があればシートの書きこんだりと情報を共有することによって、認識を更に深めるようにする。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状やお手紙の返事を一緒に作成したり、懐かしい場所を訪れたりなど（予定）を実施する。	○	一人1希望（個別のリクエストを可能な限り実現する事）を実施し、ご本人の希望されるなじみのある場所へお連れするなど個々にあったサービスを提供したい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様間の関係性を把握し、各人にとって過ごし易い環境を整えるように努めている。一緒に作業をやって頂くなど、関わりの機会を増やし、良好な関係性を保つように努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用後でも、併設特養に入所された方に対しては面会に伺ったりと関わりを持つようになっている。今後もこの関係性を保ち、面会に行く他に、全体行事での関わりを持つなど継続出来るよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当以外の職員も、各利用者様の希望・生活についての検討を行い、会議で話し合うように努めている。各利用者様の思い・希望などつぶやきや会話の中から拾い、会議時に報告・検討するようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの経緯や入居前の生活について聞きとりを行っている。可能な限りご本人の希望に添う馴染みの暮らし方が出来るように努めている。得た情報は担当を中心に職員全体で把握できるように努めている。また、必要に応じて会議で話し合うなど検討する機会も設けている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランの作成に伴い、デイリープランの充実を図っている。	○ デイリープランの作成・見直しを検討し、職員間での認識を深めるように努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員・計画作成担当者・ハウスマネージャーが中心となり、利用者様・ご家族・各職員の意見を吸い上げ、ご本人の意向・QOLを高めることの出来るケアプランを立案するように努めている。	○ 現状のカンファレンス体系を継続し、さらに細やかなケアプランの作成に努める。また、作成の時間を確保できるような業務の見直しを図る。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要時には担当職員・計画作成担当者・ハウスマネージャーが中心となり、利用者様・ご家族・各職員の意見を吸い上げ、変化した状況にあった対応方法の検討、ケアプランの変更を随時行っている。	○ 現状のカンファレンス体系を継続し、見直しを行った場合には早速ケアプランに反映できるように体制・時間を確保できるように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人1記事を目標とし、日々の些細な出来事なるべく日誌に反映するよう努めている。介護記録・情報連絡ノートに情報を記入することで、職員間の情報共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人の状態変化などによって、グループホーム内での対応の選択肢が限られてしまった場合、打開策として併設の特養・DSのソフト・ハードを利用することも検討に入れている。情報交換もリーダー会議などで密に行うようにしている。また、一人1希望を実施することで、ご希望に柔軟に対応するよう努める。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の意向・必要性に応じ、地域のボランティアハウス（シニアクラブ）の催しものに参加したり、小学校の交流学习の受け入れを行ったりと幅を広げて支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じ、地域包括支援センターやサービス事業者との話し合いを行っている。安定した関係性が保てており、現状を維持するよう努める。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じ、地域包括支援センター職員など見識者による勉強会を実施し、認識を深める。	○	権利擁護などに関する勉強会を実施し、職員に見識を深めてもらう機会を定期的に設ける。

岐阜県 グループホーム ジョイフル各務原

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様が病院受診される際には、BPデータをお渡ししたり、今までの身体状況をまとめてお渡ししたりと必要なデータを提供できるよう努めている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師との関係を維持できるように努める。相談できるような関係性を持てるようにする。 現在、特養の常勤医・看護師へ事例を相談したりなど、専門家からの意見を貰うようにしており、今後も継続して行うようにする。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特養の看護師が1日に1回は見に来て下さるため、介護職員だけでは判断しかねる疾病に関することなどを相談し、ケアに反映している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、ご家族と連携を取りながら病院のソーシャルワーカー・医師と連携を取れるように調整役を行う。また、病院への情報提供も行う。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、利用者様・ご家族の意向を踏まえながら、医療機関などとも連携を取りつつ可能な限りご希望に添えるよう努める。	○	終末期の指針については、具体的な話し合いが出来ていないため、今後施設としての方向性を決めていく必要がある。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の対応については、利用者様・ご家族の意向を踏まえながら、医療機関などとも連携を取りつつ可能な限りご希望に添えるよう努める。	○	終末期の指針については、具体的な話し合いが出来ていないため、今後施設としての方向性を決めていく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者様の移動の際には、ご本人に取って最小限の精神的・身体的負担であるように、情報提供を行うようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様を「人生の先輩」とし、お一人お一人を尊重できるよう配慮して対応している。個人情報が記載された用紙は、必要な情報をPC内の日誌や冊子で保管しているカルテに入力・記入している。不必要になった書類は焼却処分している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様にとってわかりやすい説明を行い、ご本人の意思を表出しやすい環境を整えるよう努めている。会議などで、長期間一緒にいることになあな対処になっていないか振り返る機会を持っている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活パターンを把握し、ご本人の希望に応じてどのようにすごして頂くか検討する。	○	デイリープランの作成・見直しを検討し、職員間での認識を深めるように努める。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の今までの生活習慣を尊重し、ご家族と相談のうえ外部の理美容へ行かれる場合は、各人で対応して頂いている。		

岐阜県. グループホーム ジョイフル各務原

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>身体状況により、職員体制等により入浴して頂けないことがあるため、清拭などで代替を行っている。職員数を確保し、安定して入浴を提供できるよう努める。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>定期的に提供できるように予定を立て、大作にも取り組むことのできるような環境を作る。</p>

岐阜県 グループホーム ジョイフル各務原

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際に、ご本人に財布を持って頂き、支払いを行って頂く等、各利用者様に応じた方法で関わって頂ける様努めている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事・特養の催し物に参加して頂いたり、カラオケに行ったりと外出する機会を可能な限り作るようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人1希望を実施し、可能な限り答えることの出来る体制を作る、また、家族会などでご家族との外出の機会を持てるよう努める。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人・ご家族の希望などに応じ、必要な手助けを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	門戸を開き、訪れやすいような環境作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の資料を配布したり、勉強会を開催している。今後もケア研修（年6回）で取り上げるなど、定期的に学ぶ機会を持つようにする。		


岐阜県 グループホーム ジョイフル各務原

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>特養やDSとの兼ね合いもあり、開錠が困難な場合もある。今後は開錠について検討するなど「鍵がかかっていることの弊害を考える機会を持ちたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>GH内でのリスクマネジメントに取り組む（年4回程度）。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>応急手当などすべての職員に研修が実施できておらず、今後進める予定。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>避難訓練を特養と合同で実施し、参加するよう努めている（年2回。総合非難訓練は年1回）。災害時の地域との連携については、特養と合同の形で検討している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日々の状態変化から、ご本人に起こりうるリスクについてお話しするよう勤めている。対応策は、ご本人・ご家族の希望を踏まえ、会議等で検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の状態変化など、記事や情報交換ノートの使用によって情報の共有を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋・投薬内容を毎回カルテにしまい、処方量など確認し、変更あればその旨記入するようにしている。投薬内容（薬の種類）については各自確認したりし、内容把握に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘によって起こる影響について学び、排便のペースをつかむよう勤めている。また、予防として食物繊維の多い食材の使用、牛乳の提供など行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご本人で管理・施行が困難な方に対して、必要な部分の支援を行っている。ご本人で可能な方に対しては、様子を見ながら助言等を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の食事量に合わせ、提供している。また、水分を多く摂取できるよう、お茶をすすめる機会を食事・おやつ以外にも持つよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の対策マニュアルを回覧し、対応策を決めている（スタッフルームに置き、見れるようにしている）。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防のため、指手や使用品のアルコール消毒を行っている。食品に関しては提供前・使用前に消費・賞味期限の確認を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに飾り付けを行い、温かみのある環境作りに努めている。 玄関の日当たりが悪く、植物を置いての環境作りが困難なため、ラティスを置くなどの環境整備を行っている。今後も模様替えを行っていく予定。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、写真や手作り作品を掲示し、居心地よく過ごせるよう配慮している。季節の飾りつけも行い、季節感を感じて頂けるよう努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用テーブルの他に、ソファコーナーや畳コーナー（和室）の整備を行い、思い思いに過ごして頂けるよう努めている。状態に合わせて模様替えの検討を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・事業所として、ご本人にとってよりよい生活を過ごして頂く為、併設施設（特養・DS）と連携し、行事への参加や、提供できるサービスの一層の充実を図っています。
- ・ご家族に対して、GHへの理解を深めて頂く目的で、掲示板の設置・議事録の開示を行う予定です。また、希望される方には、勉強会の実施なども検討しています。
- ・利用者様の生活の選択肢を増やし、また地域活動への参加、社会的役割の創出のため、見守り隊（地域の小学校などの下校時の見守り）へ随時参加を行っています。街頭活動の他、買い物時など車からでも参加できるよう、掲示用「パトロール中」の準備も進めています。
- ・年2回程度家族会を開催し、利用者様・ご家族・職員の交流の機会を持つようにしています。家族会の後には、意見交換会を実施し、ご家族との意見交換できる場を設けています。